

# 日本における能率研究史に関する解明 —明治・大正・昭和初期における産業能率問題—

The Historical Problems of Efficiency in Japanese Industries

裴 富 吉  
BAE Boo-Gil

今回〔1997年度〕の分野別研究組織の交付にもとづく研究成果は、つぎのようである。

- 1) 本研究は、日本経営学史における理論的出発点を探り、これを確定しようとする問題意識をもっている。旧日本帝国の属国であった満州国において展開された産業能率問題史に注目することは、従来、まったく関心の寄せられていなかった新分野である日満能率交流史を解明することになった。
- 2) 日本における能率史は実は、満州産業経営における合理化問題と密接な歴史的な関連性を有していた。とくに本研究は、満州国において発行されていた『満州の能率』（昭和14年創刊）を中心的な資料としながら、満州経済における経営能率史の発展を明らかにすることができた。
- 3) 1)と2)の研究成果は具体的にはつぎの3点に発表されることになった。

## ① <「研究資料」としての成果公表>

- ・研究資料『満州の能率』各巻各号の主要論文〔その1〕  
→『大阪産業大学論集（社会科学編）』第108号、1998年2月。
- ・研究資料『満州の能率』各巻各号の主要論文〔その2〕  
→『大阪産業大学論集（社会科学編）』第109号、1998年6月。
- ・研究資料『満州の能率』各巻各号の主要論文〔その3〕  
→『大阪産業大学論集（社会科学編）』第110号、1998年10月。
- ・研究資料『満州の能率』各巻各号の主要論文〔その4〕  
→『大阪産業大学論集（社会科学編）』第111号、1998年2月〔掲載予定〕。

## ② <「論文」としての成果公表>

- ・論文「満州経営能率問題に関する思想史的考察」  
→『大阪産業大学論集（社会科学編）』第110号、1998年10月。

## ③ <「単行本」としての成果公表>

- ・題名『満州経営能率思想史』〔1999年9月刊行予定〕  
→本書の概要をその目次内容で下記に一覧しておきたい。

『満州経営能率思想史』（主要もくじ）

第1部「満州と能率」

序章 満州と能率問題－問題意識－

第1章 満州における能率問題の発生

第2章 能率指導家のかかわり

第3章 満鉄「能率係」設置－「満州国」建国－「満州能率協会」  
創立をめぐる経済社会政治史的背景

第4章 満州能率協会－主な活動－

第2部「満州の政治」

第5章 満州国論－満州企業経営論の前提－

第6章 満州国高官：古海忠之と武藤富男

第3部「満州の企業」

第7章 満州企業経営論と能率問題〔その1〕－山本安次郎『満州建国十年史』「企業」の現状分析観－

第8章 満州企業経営論と能率問題〔その2〕－山本安次郎『公社企業と現代経営学』の経営本質観－

第9章 満州企業経営論と国策会社論

第4部「満州の能率」

第10章 満州能率協会の位置づけ

第11章 満州戦時経済論と能率問題

第12章 満州鉱山労働問題

第13章 戦時体制－満州企業経営－社会科学－経営学者

4) 本研究1)の問題意識は、3)に記したような研究成果の公表をとおして、実質的な確証をえることができた。この研究成果の実現は、本「分野別研究組織」による援助をえてなされた。この点を特記して感謝の意を表したい。